

2019年度日本数学会出版賞受賞者のことば

Tokyo Journal of Mathematics

Tokyo Journal of Mathematics (TJM) は 1978 年に首都圏の 6 大学 (学習院大, 慶應義塾大, 上智大, 東京都立大, 津田塾大, 早稲田大) によって創刊され, その後中央大, 明治大, 東海大, 東京理科大が加わり, 現在では 10 大学によって運営されております. 今回の賞は, 編集委員長あてに頂いたので, 河田敬義先生から始まる歴代編集委員長を列挙いたしますと

1978 年 ~ 1987 年	河田敬義
1987 年 ~ 1990 年	岩堀長慶
1990 年 ~ 1999 年	長野 正
1999 年 ~ 2002 年	加藤昌英
2002 年 ~ 2013 年	筱田健一
2013 年 ~ 2019 年現在	栗原将人

となっております (中間の 1999 年から 2008 年までは編集委員長という職が置かれていないので実質的に編集委員長の仕事をされた方). 今回の授賞式では, 現編集委員長の私が代表となって賞を頂きましたが, 実際には河田先生に始まる上記の編集委員長の先生方のご努力が評価されたものと考えております (私には特に筱田先生のご努力が印象深いです). また歴代編集委員の先生方にも大変お世話になりました. TJM は初期にはページチャージがあるような紀要的性格の雑誌でしたが, それはかなり昔の話であり, 現在は国際的数学誌に成長しております. 年間の投稿数だけ見ても, 20 世紀は 30 編程度という牧歌的な時代でしたが, 私が編集委員長になる直前の 2012 年に 64 編, 私が編集委員長になった 2013 年からは 100 編を超え, 今年度 2018 年度は 229 編でした. このうち, 約 20 編から 30 編がアクセプトということになります. 雑誌の命は, 質のよい論文の掲載ですから, この機会に皆様に TJM のことをよく知って頂き, ぜひ質の高い, よい論文の投稿をお願いいたしたく考えております.

今回の受賞では, 多数の大学による運営という点をご評価頂きましたが, 詳しいことは書きませんが, この点ではなかなか大変なことが多くございます. 実際, 協力体制が崩れれば, 廃刊ということもあり得ない話ではありません. 今まで多くの先生方のご努力によってここまで来た TJM をこれからもさらに成長させていくために, 今回の受賞を大変うれしく思っております. このたびは出版賞をありがとうございました.

栗原 将人
TJM 編集委員長
慶應義塾大学教授

齋藤 毅 氏, 河東 泰之 氏, 小林 俊行 氏 編
『数学の現在』(全3巻, 東京大学出版会, 2016年)

『数学の現在』に日本数学会出版賞をいただき, ありがとうございます. 編者としてわたしたちがいただくことになりましたが, 原稿を執筆された著者の方々, 東京大学出版会の編集者の方のかわりにいただいたと考えています.

『数学の現在』は, これから本格的に数学の勉強を始めようという学生をはじめ, 広く数学に関心のある方に, 現在の数学の生き生きとした姿をありのままに伝えたいということで企画しました. 東京大学理学部数学科に4年生向けの必修のオムニバス講義として, 各教員がそれぞれの専門分野を1時間で紹介するものがあります. それをもとにした原稿をまとめて本にしたもので, 難しさ読みやすさがまちまちなもの, 実際の講義を忠実に反映しています.

現在の数学を一般の読者にどう伝えるかという問題には, 対象とする具体的なものがないというところに他の自然科学にはない難しさがあると思います. 『数学の現在』は, もともとが数学科の4年生向けの講義ということで直球勝負に近いものとなりました. 出版賞の受賞理由から引用しますと, 「専門的な数学を解説する書物は難度が高く, その一方で数学ファンを対象として出版される書物は単なる読み物にとどまることが多い. 非専門家向けに書かれた書物で, 数学の広い領域に渡り, 深淵な数学の本質に迫るものは近年ほとんど見当たらなかった. 本書は, この溝を埋める特徴的なものに仕上がっており, 数学の教育に対する大きな貢献と評価され, 本賞に相応しいものである.」と評価していただいたのは, ありがたいことですし, うれしいことでもあります.

編者としては, 予想以上の多くの執筆者の方に原稿をいただいたのがうれしいことでした. すべての原稿に目を通すのは大変だと最初は思いましたが, 実際に読んでみると, どの原稿にも著者の個性がよく現れていて, また数学的内容も興味深く書かれていて楽しい作業でした. またそのおかげで全3冊となり, 各巻に i , π , e という番号をつけられたのも数学の本ならではの, でした.

出版賞を機会として, 『数学の現在』を通じてますます多くの人が現在の数学に触れていたければ, うれしいことです.

齋藤 毅
河東 泰之
小林 俊行
東京大学大学院数理科学研究科教授

本間龍雄氏はご執筆を辞退されましたので、ここに改めて授賞理由を掲載させていただきます。

* * * * *

位相幾何学・トポロジーという概念がほとんど知られていない時期から、一般向けに、これらの概念を紹介する書物を出版し、トポロジーの面白さ、不思議さを多くの人々に伝えることに大きく貢献してきた。本間氏の啓蒙書は執筆当時での最新の研究成果を盛り込んでいる点に大きな特色があり、今日でも学部生の教育に活用できる水準であることも氏の著作の特色であり、本賞に相応しいものである。